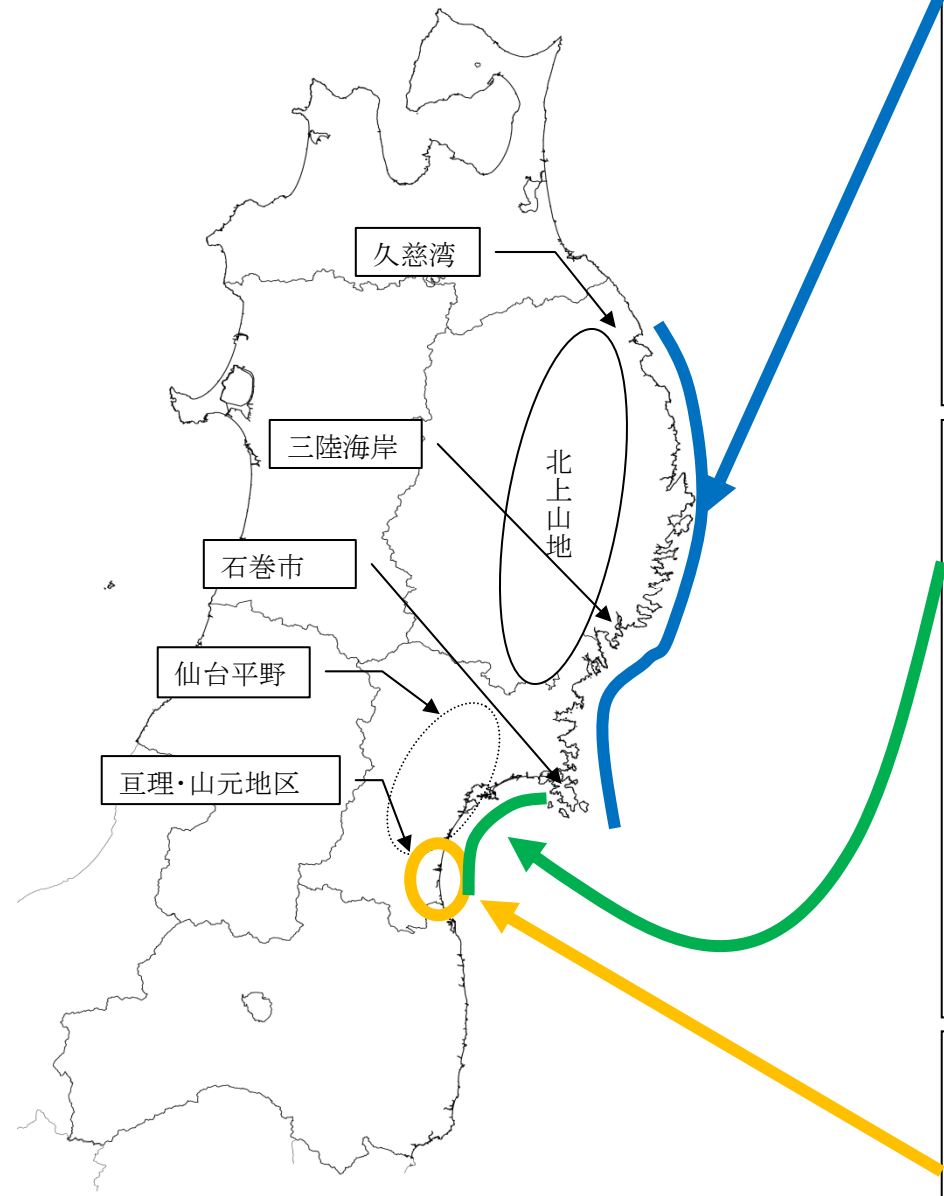


別紙：地域別の東北農水産業の再生試案



地域Ⅰ 三陸海岸 (久慈〜石巻)

1) 地勢と農林水産業の特徴：北上山地と三陸リアス式海岸に囲まれた小規模農業で半農半漁の農業形態。
 漁業中心で農業は中山間地で規模拡大には物理的な制限

2) 再生のポイント：**農漁村自営業者創出、農林水観光の融合産業化、スマート・コミュニティの形成**

①水産業の再生；1種、2種漁港への対応。遠洋、沖合の拠点化、沿岸（定置）・養殖の大規模化、漁港の集約に関する調整。
 ②高付加価値型集約園芸の追求（90年代後半の韓国戦略の導入＝中山間地への施設園芸の導入、南三陸町の菊農家）
 ③三陸一帯の国際観光地としての整備（コッワルドやスイスのような観光地の模索）
 ④農水産業での太陽光発電、スマート・コミュニティの形成、北上山地の木質バイオマス活用、林業のSCM等の実現
 ⑤融合産業化（農林水観光）、農漁村自営業者の創出、水産加工業者を事業者軸とした地域再編。外部資本導入

3) 課題と対策

①農漁村自営業者の創出の可能性、養殖業や沿岸漁業の共同化・法人化の可能性
 ②観光地創造ノウハウ

地域Ⅱ 仙台平野 (石巻以南の仙台湾岸)

1) 地勢と農林水産業の特徴：松島周辺をのぞき、フラットな平野。日本有数の稲作地帯、仙台平野の一部を形成。

2) 再生のポイント：**競争力のある農場の創出、農業経営者の公募、**

①3-5年復旧にかかる農地を「強制」買上げないし借り上げ大規模化、1-2年復旧にかかる農地の集団化
 ②大規模水田複合経営、超大規模稲作農業(200ha級)、稲作(30~40ha)+畜産(仙台牛肥育)、施設園芸(トマト、キュウリ、切り花等)、大規模野菜団地やアグリビジネス複合体（舞台ファーム）など多様な展開が可能。
 仙台市内には、既に50余の大規模水田経営法人や集落営農が存在。次代を担う農業経営者の全国公募

3) 課題と対策

①農地集約の可能性→国による強制買入れ、借地の可能性、モデル農場化の可能性
 ②農業経営者の全国公募の可能性
 ③専業農家の雇用対策→全国の優良農家、法人への研修派遣、他所での農業継続可能性、工場などへの就職斡旋、土木作業(ガレキ撤去作業)等
 ④点在する漁港の整備（閑上、セヶ浜等）

地域Ⅲ 仙南地域 (亶理町〜山元町)

1) 地勢と農業の特徴：阿武隈山系と太平洋との間に広がる平坦地帯。亶理町(20億円)と山元町(15億円)で東北最大のイチゴ産地。
 イチゴ農家約500名弱。約90%が被災（この地域の地域性は、福島沿岸部まで連なっているが、）

2) 再生のポイント：**法人化等による産地の強化、人材の全国流動化等のモデル展開**

①産地全体への法人化への移行（約300名で35億円の個人経営の集合体産地を1法人1億円、35法人へ）
 ②冬出荷型産地から夏も出荷する通年供給体制の実現。内陸の白石、蔵王地区に建設。通勤農業、全国展開
 ③園芸での太陽光発電、阿武隈高地の木質チップバイオマス活用、スマート・コミュニティの形成

3) 課題と対策

①被災したハウスを国が買い上げる可能性、
 ②大型ハウス化の可能性、三陸海岸と同様の共同化・法人化の可能性
 ③農業者の全国規模での流動可能性、大規模水田複合経営の創出可能性
 ④アグリビジネス複合体の創出可能性